

湖をスイスイ？ゲンゴロウ化石

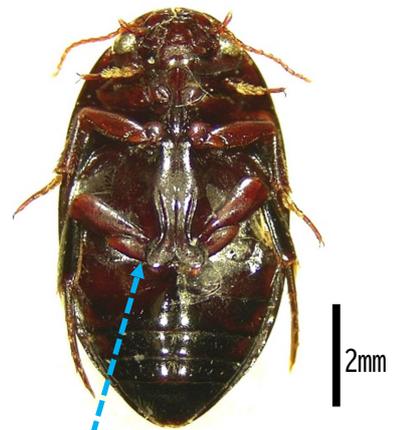
— 一体の表と裏が残っている貴重な標本 —

どんな昆虫？ 約 350 万年前の兜岩層から見つかった水生甲虫のゲンゴロウです。このなかまは幼虫と成虫ともに肉食性です。成虫は夜間、灯火にやってくる場合があります。

表側（背面）と裏側（腹面）が残る貴重な標本です。楕円形の体型と腹面に矢印で示した後基節突起^{こうきせつとつき}があるのでゲンゴロウ科の仲間であることがわかります。このゲンゴロウ、兜岩層が堆積した湖をスイスイと泳いでいたことでしょう。



下仁田で採集した
モンキマメゲンゴロウ
スケール 2mm



こうきせつとつき
後基節突起

標本番号 SNM-F-Kb-438 体長 8.0mm 最大幅 4.5mm スケール 2mm 茂木伊一氏採集

日本各地でゲンゴロウのなかまは激減しています。

日本には 164 種のゲンゴロウの仲間が知られています。そのうち 1 種が絶滅種、29 種が絶滅危惧種、20 種が準絶滅危惧種です。下仁田では 2016 年 7 月 1 日に青倉公園そばの橋の照明に飛んできたモンキマメゲンゴロウを採集しましたが、その後は見ていません。